



東京日々新聞



最ふ心の情は深き中仙道の深谷とて人の眼の媚妓は馴れて通ひ。
 談資家へも談と整やめて吾家の妻召村へ引寄せし約束の地す
 情郎のありとて容れ勃然とあつて誠責を以て妓の手替の
 妙術にて死を識と明さんと云ふ奥の手と試て
 見よと。俱に死んと華表は推ひ出て
 或る蘭若の妻所へ到て合掌し男の死出
 の米内とせんと短刀腹へ突之れれば周章と
 愕き逃出せ妓と笑て呼止りの之れ
 糊紅の細工ありて互に却色と傳奇
 あり若く過つて魅よめく貴重
 の命を断り至る疑ひ深き也
 野蠻子あらばや此話又
 故人の句よるる。

白雲や春分別
 那ら玉をくはる

轉々空玄記

蕙齋
 芳樂

神
 具足屋
 渡辺彫米

